略かゝる火急の中にも盗人は有けり、引すてたる車長持を取て方々へにげゆくこと、更におかしかりけるは、ゐはいやの某が、我一跡は是なりとて、つくりたてたる大位牌小位はい、漆ぬり箔絲いろ〳〵なりけるを、車長もちにうち入引出し、あまりに間近くもえきたる火をのがれんとて、うちすてたるを、いつの間にかとりて行、淺草野邊にて鎖をねぢきり、蓋を開たりければ、用にもなきゐはいどもなりけり、略○下

〔むさしあぶみ下〕樂齋房申やう、いかに狛物うりどのきゝ給へ、それがし、十八日の火事には、親類家中無事なりしかば、めでたきことなりとて、酒さかな買求め、十九日のあしたに祝事して數獻のみける酒に醉ふし、前後さらに去らざりしに、又火事よといふに、妻子ども我をいかにとかすべきとて、車長もちに押入、鎖をおろして引出し、芝口にうちすてたり、ぬす人どもあつまり、鎖をぬぢきり、長持をうちわる音のね耳に入て目をさまし、あたりをさぐりまはせば、四方は板なり、そばにはかたな一腰、小袖なども手にさはれり、略○下

〔享保集成絲綸錄二十六〕天和三亥年正月

覺略○中

一車長持、向後彌停止之事、略○中

正月

〔國花萬葉記六攝津〕大坂名匠諸職商人幷諸問屋

長持屋　あはぢ町二丁メ　本町四丁メ　本天ま町　新町ノにし

〔倭訓栞中編十七那〕なかもち　東鑑に、貢馬三匹、中持三棹など見えたり、中取をいふにや、後世長持あり、そが中に車長持と云あり、

中持

〔類聚雜要抄二調度〕一御裝束